

令和2年度 第2回鶴岡市行財政改革推進委員会 会議録

○日 時 令和2年10月30日（金）午前10時00分～午後12時00分

○会 場 鶴岡市役所 別棟2号館 21号会議室

○出席者 委 員：上野隆一委員 佐藤敏委員 菅原けい子委員 百瀬清昭委員
重松美鈴委員 佐藤祥子委員 富樫あい子委員 伊藤大貴委員

本部長：市長

本部長：副市長 総務部長 企画部長 健康福祉部長 商工観光部長
藤島・羽黒・櫛引・朝日庁舎支所長

事務局・説明員

職員課長 職員課主幹 職員課長補佐 職員専門員 職員課主事
地域包括ケア推進室長 観光物産課長
藤島・羽黒・櫛引・朝日庁舎市民福祉課長
藤島・羽黒・櫛引・朝日庁舎産業建設課長

○欠席者 委 員：佐藤静夫委員 佐藤正一委員 渋谷広之委員 中村哲也委員
玉村雅敏委員 加藤静香委員

○会議概要

職員課主幹：

これより第2回鶴岡市行財政改革推進委員会を開会いたします。本日の進行を務めさせていただきます事務局職員課の五十嵐です。どうぞよろしくお願いいたします。次第に沿って進めさせていただきます。それでは始めに市長よりご挨拶を申し上げます。

市長：

第2回鶴岡市行財政改革推進委員会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。皆様には、日頃より本市の市政運営に多大なる御理解と御協力を賜り、深く感謝を申し上げます。残念ながら、欠席となった委員の皆さんも多くいらっしゃいますが、こちらの事前連絡が足りなかったところと思いますので、今後の開催には注意して参りたいと思います。欠席の皆さんには後日資料送付のうえ、改めてご意見を伺わせていただきたいと思います。この行財政改革推進委員会につきましては、8月21日に第1回委員会を実施いたしました。そのなかでも、個別の協議テーマとして、日帰り温泉施設の在り方を取り上げさせていただきました。先月9月15日には、会長よりご提案をいただき、かたくり温泉ぼんぼの視察に、委員の方々とともに、副市長をはじめ職員も参加することができ、今後

の在り方の大変重要な参考とさせていただきます。本日は、第2回目の行革委員会ですが、この日帰り温泉入局施設の在り方について、限られた時間の中ではありますが、本会での活発なご協議をお願いしまして、私からのあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

五十嵐主幹：

それでは次第の3、会長挨拶です。会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長：

皆さん、おはようございます。先ほど市長からもお話しありましたが、残念ながら本日は欠席者が多いです。8月に第1回目の委員会が開催され、日帰り温泉の問題は結構話題性のある事柄ですので、すぐに2回目というのもどうかと思い、事務局に私からお願いをして、以前の行財政改革で変更となった「かたくり温泉ぼんぼ」を見学に行ってみりました。渡部理事長さんが非常に熱意を持って接しており、結構年配の方ですが非常に強い情熱を持っておられ、大変感心いたしました。そういった意味で、今日は他の施設、ぼんぼの湯とゆ〜Town となりますが、これに対して皆様から活発なご議論をいただきたいと思えます。第1回委員会の挨拶でも触れましたが、会議は抽象論で終わってしまうとなかなか結果が出ないので、なるべく現場の状況を大切にしていきたいと思えますし、具体化していくことが大切です。当然数字がでてきますが、数字に対して目標を持っていくことが必要だと思います。もう一つは、費用対効果が求められます。行財政改革は費用と効果がつきまとう話になりますので、この3つの要件をじっくりと総合しながら討議できれば良いと考えていますので、限られた時間ではありますが、皆様からよろしくご検討いただきますようお願いいたします。

五十嵐主幹：

会長ありがとうございました。それでは本日の出席状況を確認させていただきます。本日配布の委員名簿にも記載させていただいておりますが、委員の中で6名の方が欠席となっております。市側からは市長副市長のほか、庁内の温泉施設関係部署の職員が出席しております。また、前回の委員会同様、傍聴、報道機関の方の同席もごございます。

それでは続きまして、委員の皆様のお手元の資料を確認させていただきます。

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 配置図
- ・ 資料1 日帰り温泉施設のこれまでの経過
- ・ 資料2 施設継続のための方策検討

資料に不足はございませんでしょうか。それでは次第に従い、4. 協議に入ります。協

議につきましては、委員会設置条例に基づき、会長に進行をお願いいたします。

会長：

それでは暫時の間会議の進行を務めさせていただきます。まず事務局から（１）日帰り温泉施設の在り方について説明をお願いいたします。

資料１ 日帰り温泉施設のこれまでの経過について 説明者 藤島庁舎支所長

会長：

ただいま温泉施設のこれまでの経過について説明がありました。今のお話を伺うと、ここ１～２年特に今年度はコロナの影響も大きかった訳ですが、大きな赤字を計上しています。こうしたことを踏まえながら、市側では温泉施設在り方検討会を立ち上げ協議を進めておりますが、行財政改革推進委員会ではどう考えるか、意見を伺いたいとのことです。ただ単に１，２年の赤字が出たから直ぐに検討する必要があるか、という議論はあると思いますが、率直な思いを大事にして検討していければと思います。

委員：

今日初めて頂いた資料で十分理解していない点もありますが、今年度までの見通し、経過を説明いただきましたが、今後どういう形で推移するか、ということは庁内で議論されているのかどうか教えていただきたいと思います。

総務部長：

もしよろしければ、資料２を先に説明させていただいたうえの方が、委員の皆様のご意見も頂戴いたしやすいかと思いますがいかがでしょうか。

会長：

それでは先に資料２の説明をお願いいたします。

資料２ 施設継続のための方策検討 説明者 総務部長

会長：

今までの経過とこれからの方針の説明がありました。行政側では２つの日帰り温泉施設に今までよりもテコ入れを強くしていこうという思いがあるようです。皆様からは市側の思いに対して質問、意見など忌憚なくお伺いしたいと思います。

委員：

地元密着型組織の検討について、委託料などの説明がありましたが、ここを変えるとど

こが変わるのか少し理解しきれなかった点もあるので、説明をお願いいたします。

総務部長：

説明が不十分で申し訳ありませんでした。簡潔に申しあげますと、これまでは株式会社が直接皆様から料金をいただき、その料金の中で運営し、足りない部分を委託料で払っていました。この方式のイメージは、利用料金を市が全て収入し、その中から基準に基づき、人件費、経費はこの程度でやってくださいと市が決めた委託料を基に固定して支出します。新しい組織においては委託料の範囲の中で運営をしていくこととなりますので、安定感が見込めるものです。なお不足があればお尋ねください。

委員：

私は櫛引地域に住んでいますが、10数年前にたった一度臭いと思ったのがきっかけで、それ以来ゆ〜Town に足を運んでいません。先月行われた櫛引地域の懇談会においてゆ〜Town の泉質はすごく良いということを知り、やはり地元に残していく形で、地域の中でも様々なアイデアを皆で出し合って、皆が利用するような入浴施設になっていけば良いと強く思いましたので、そうした場を作っていけたら良いと思います。櫛引はスポーツが盛んなところですので、広い部屋に卓球台を置くなど、スポーツが盛んであることを強みに、スポーツを第一目的、入浴を第二目的とするような形ができないかと考えています。食堂に関してはテナントで貸付するというので、様々な人が新たに活躍できる形も良いと思いました。

会長：

ゆ〜Town とぼっぼの湯の利用者数にかなり差があるのはなぜかと思ひますし、羽黒のゆぼかはなぜこの議論に入っていないかという、ゆぼかは黒字だから入らないそうです。では、ゆぼかとゆ〜Town はどこが違うのかという素朴な疑問があります。そういった単純なことでも結構ですので、率直な意見を皆さんから教えていただきたいと思ひます。

委員：

私はゆぼかとゆ〜Town、どちらも同じくらいの距離ですので、両方を使っております。ゆぼかは会議と懇親会がほとんどで、温泉は4〜5回位しか入っていません。ゆ〜Town は、こんなことを言うと失礼かもしれませんが、混まずにゆ〜Town に入れるのが良い。どこが違うのか分かるように、ゆぼかのデータも少しあっても良いと思ひます。利用者の視点から見ますと、ゆぼかが場所も良く賑わいがあります。常に駐車場が満車で圧倒されます。地域外からもかなり来客がありますし、会議、懇親会も多く行われています。単なる入浴施設としての利用だけでなく、多目的な利用者が多いと感じていて、そこにゆ〜Town との差があるのではないかと思ひます。ふるさと創生の1億円で、羽黒町で源泉を掘削し、ゆぼかが開設されてから20年以上経過します。施設の老朽化、維持修繕費の増加もあり、ゆ

ほかにも同じような課題が早晚出てくるのではないかと感じています。

会長：

先日のぼんぼ視察にも参加いただいた委員は、この問題についてどう考えますか。

委員：

日帰り温泉施設は小学生くらいになるとスポーツ少年団等で団体での利用もあるかと思いますが、未就学児の親としてはなかなか利用しづらい点はあると思います。地元からの存続の声があるということですが、存続の声をあげている方はどのような年齢層の方なのか、若い親世代からなのか、或いはもう少し高齢の方からなのかと想像していますがいかがでしょうか。

藤島支所長：

藤島につきましては、まず真っ先にお聞きしたのは地元の町内会、自治振興会で、比較的年齢の高い、温泉に利用がある方々から存続して欲しいとの声をいただいております。また、地元には長沼温泉を使って地域を活性化させようとする温泉活性化委員会があり、その組織のもう少し若い層の方からも存続の声があると伺っております。子育て世代の方にはまだ十分ご意見を確認できていませんが、ぼんぼの湯としては、なんとか子育て世代からも使ってもらいたいということで、地元のNPO組織と連携して、毎月1回お風呂託児の取組みを行っておりますので、恐らく存続を願う声があるものと思いますが、なお、十分に確認させていただきます。

委員：

ありがとうございます。お風呂託児は私も利用したことがありまして、大変良い取組みで応援したいと思いました。庄内地域以外の子育て世代の方と交流させていただくと、庄内の自然遊びをしてから温泉に入って地元に戻りたいという声も聞かれます。温泉施設の魅力が向上すれば、他地域の子育て世代の方からも利用が見込めると思いますので、是非存続していただきたいと思います。

委員：

温泉に関しては朝日のぼんぼに良く行っています。お聞きしたいことが2点あり、1つは、ぼんぼ以外の利用者のモチベーションがあまりピンとこないということがありますので、どんな層がいて、どんなモチベーションで利用されている方が多いのかをお伺いします。もう1つは、付加価値を付けるその前に、今の価値が伝わってなくて、今どんないい取組みをやっているのかを知らないと思います。そうした中でどう情報発信しているのかが気になります。

櫛引支所長：

利用者については、櫛引温泉はあたたまりの湯、かけ流しでもありますし、疲労回復にも効果があるということで年齢層が比較的高い方の利用が多くなっています。子育て世代や隣接のスポーツ施設利用者からも大勢利用していただきたいと考え、様々な取り組みを行っています。情報発信については、経営が悪化してきた段階から地域向けには「ゆ～Town だより」という広報誌を毎月1回発行し、経営状況を細かくお知らせし、利用拡大をお願いしております。また、公社自前のホームページに切り替えを行い、たびたび更新を行っておりますし、SNS 等でも様々な諸行事について発信をしております。いずれも平成29年以降赤字に転落したことを受け対策を講じているものの、今般のコロナの影響もあり現在は経営的に大変厳しい状況に陥っています。

藤島支所長：

利用者のモチベーションという点では櫛引とほとんど同じですが、藤島の温泉の効能として皮膚病に大変効くということで、そうした方からの利用も特に利用されています。また、早朝6時から営業をしていますので、出勤前にさっぱりしたいという方からも人気があります。情報発信の点では、チラシを作って全戸配布するなど、SNS も活用しております。

委員：

具体的にお話しいただきありがとうございます。恐らく少数かもしれませんが、PRすれば伸びる層がいると思います。今、高齢者や地域の方の利用が多いのは自然なことで、SNS の発信方法はそういった近い利用者がより好きになる、知っている人がもっと情報を取得できるようになるには良い手法ですが、全く新しい人に届く発信手法ではないと思います。例えばSNS では知っているからフォローできるし、チラシも以前から知っている内容をより詳しく知るための地域向けの内容になっていると思いますので、なかなか新しい層に温泉の魅力を伝えるには向いてないやり方だと考えています。近いから、安いから、前から使っているから、ではない温泉の魅力に気付いている方が、そんなに人数は多くないがいらっしやると思います。例えばゆ～Town でいえば運動し、疲労回復まで一緒にできるのはゆ～Town だけという方、ぽっぼの湯であれば皮膚病に効果がある、肌荒れによいなど、そういった点を知らない人に対して新規向けに届けるような情報施策はチラシやSNS では難しいと思うので、その点はインターネットを使った広告や、SNS の発信を別の人に頼んでみるなど、より新規に広がる方法を使うと、魅力に気付いた地域外の人を呼ぶことができると思います。

委員：

山形県には各市町村に温泉があるといわれておりますが、少子高齢化で現状のように推移することも納得いくものと思います。高齢者とよく関わる機会がありますが、ぽっぼの

湯、ゆ〜Townによく行かれる、という方がたくさんいます。丈夫でいるには健康寿命を延ばすことが大切になりますので、費用対効果を抑えたうえで持続していけたら良いと思います。温泉を利用することが多いですが、検討事項2の課題に付加価値づけとあります。先ほども意見がありましたが、イベントができるような施設があったらいいな、といつも思っております。湯野浜温泉に行って会議をして、高いお金を出していますが、先日視察した朝日のぼんぼのように、隣接している公共施設を活用すれば利用も伸びるのでは、と思いました。コロナ禍だからこそ今がチャンスという気持ちで、施設を存続するために取り組んでいただきたいと思います。情報発信としてホームページ、SNSなどを活用しているようですが、見る方は少ないと思います。一生懸命なのは分かりますが、もっと分かりやすく見られるようにするために考えていただきたいと思います。いくらチラシを配っても見ませんし、以前お知らせしたといっても知らないという方が多くいらっしゃいます。若い方は見るかもしれませんが、広く老若男女にお知らせするためには、温泉ごとの取り組みだけでなく、鶴岡市のホームページや、全国的にPRをするべきだと思います。

会長：

情報発信について問題提起がありましたのでどなたかお答え願います。これからの情報発信をどのようにしていくべきなのか、考えをお願いします。

藤島支所長：

藤島だけ、櫛引だけで発信することも必要ですが、市全体で観光部門、健康福祉部門も一緒になって発信をして、新たな層からも見ていただく。具体的な案などはまだ何もありませんが、そういった視点は大事であると思います。

副市長：

ぽっぽの湯、ゆ〜Townの指定管理を受託しております第三セクターの代表を務めております。こうした状況になりましたことに責任を痛感しております。今ご意見がありましたSNS、チラシ等による周知以外の手法については、これまでも懸案事項でありました。私が常々感じておりましたのは、特に櫛引の場合は隣にスポーツセンター、野球場、グラウンド等がございますので、外からの来客は多いのですが、何よりも地元の方の利用が少ないと感じています。全体の中の割合が極めて少ないです。そのために各庁舎で様々な手段を講じて地元の皆さんの利用の掘り起こしをお願いしてきましたが、残念ながら地元の利用が伸びていません。地元の温泉ですので、やはり地元の皆さんからもご活用いただくことが大切だと思っております。

委員：

私も今は温泉離れしていますが、昔はよく行きました。子供が小さい時に、祖母らと一緒に行っていました。どこかに遊びに行った帰りに寄って、お風呂に入ってからゆっくり

家に帰るといった形で利用していました。私もぽっぽの湯とゆ〜Townは利用したことがなく、羽黒のほうに行くことが多かったです。スキー場に行った帰り、あるいは羽黒山の帰りに寄ってお風呂に入って帰ることが多かったと思います。先ほど意見がありましたが、ゆぽかは外から見た雰囲気明るく賑やかで、行ってみたいという気になります。ぽっぽの湯の近くも通りますが、何となく薄暗い感じがして、若い人は利用しにくいイメージがありました。ゆ〜Townは、子供がバスケットボールをやっていたので毎週体育館は利用していたのですが、隣のお風呂に行こうとしたことは10数年間一度もありませんでした。ここで質問ですが、お風呂に入ると何か特典、例えば割引券などがあったりするのでしょうか。

櫛引支所長：

ゆ〜Townはポイント制もありますし、体育施設を利用者は入浴料を割引する制度もあり、広く周知をしております。トレーニングジムの利用者からは多く活用いただいておりますが、大会等で来られる選手の皆様からは、時間的な制約もあってお立ち寄りいただく機会は少なくなっている状況です。ただ、ご父兄の皆様には応援をされたあとにお立ち寄りいただくよう引き続き努力していきたいと考えています。

藤島支所長：

ぽっぽの湯ではスタンプカードがあり、30ポイントで入浴券と引き換えとなります。

委員

ありがとうございます。今はこういう時代ですので、若い方はなかなか余計なお金を使いません。ただ、加茂地区でもそうですが、60歳以下の方からはなるべく安く楽しくという要望がありますが、それ以上の年齢層からはお金がかかってもいいから美味しいものを食べるようなイベントの要望があり、年代によって要望やお金の使い方が違うと思いますので、年齢に合わせたサービスを取り入れていくことで、地元外の方も興味を持って足を運んでくれるのではないのでしょうか。また、どんな情報でもすぐに手に入る世代の子供達に温泉の情報が入らないのはSNSの使い方、情報発信のやり方に原因があると思います。ここに行くところが見られる、食べられるなど、こうしたことに若い方は興味を持つのではないかと思います。早いものは1か月程度でブームが去ってしまうような時代で、長く流行を続けるのは難しいことですが、若い方、高齢者が何を求めているのかを随時情報収集をしながらやり方を変えていくことが大切だと思います。

委員：

特に若い方に情報を届けるためには、簡単に言うと目に飛び込んでくる情報が必要です。わざわざ探して読む、調べるというのは余程気になっていること、好きなことでないと、時間をわざわざかけることはしません。情報が溢れているこの状況では、情報をいかに探

すかではなく、いかに情報をシャットダウンして自分の好きなものだけを探すことに頭を使いますので、チラシ、新聞は読みませんし、ホームページをわざわざ探すこともしません。目に飛び込んでくる情報というのは、昔はテレビのコマーシャルがありましたが、最近ではコマーシャルを飛ばして録画して番組だけを見ますし、そもそもテレビ自体を見ない方もいます。若い方はテレビを見ずにスマホを見ていますので、そのスマホにどれだけ目に飛び込んでくる情報をだせるかが勝負だと思います。SNS のアカウントを持っていても、温泉の SNS の存在を知らないと情報は飛び込んでこないのです。例えば Youtube の前に流れる動画は広告料を払って載せているのですが、それに載せるというのもあります。昔はテレビに情報を載せていたものが、最近では Youtube などの動画に広告を載せています。山形から Youtube に広告を載せているのは少なく、山形銀行くらいしか見たことがありません。なので、地元の若い世代に対して目に飛び込んでくる地元の情報は、今は恐らくないのではないのでしょうか。あのような広告はエリアを限定して出せますので、鶴岡地域の人に限定して広告を出すこともできますが、そういった取組みをしていないので、地元で頑張っている取組みや体に良いもの、美味しいものなどを知らないまま県外の情報が流れているのを見て、県外に憧れるといった現象が起きていると思います。昔テレビに出していた情報を、デジタル媒体に出していくべきだと考えています。温泉の予算の中で広告宣伝費があると思いますが、もしチラシ、テレビ、ラジオ等に使っているのであれば、一部を Youtube 広告、SNS 広告など目に飛び込んでくる情報発信に充てることも良いと思います。

委員：

施設継続のための方策検討の中で委託料の固定化、人件費の縮減などがありましたが、財政的には安定感を増す方策だと思いますが、指定管理者としての職員、社員としてのモチベーションはどうなるのかといった折り合いをつけていくことも必要で、これからの検討事項だと思います。また、新規利用者の拡大について、これまでも SNS の活用など様々な意見がありましたが、先日視察したかたくり温泉ぼんぼでは様々な介護予防事業をやっていて、職員も相当工夫して情報発信を行っていますし、そうしたことが職員のモチベーション向上にも繋がっているのではないかと思います。ぼんぼの場合、行政財産としての用途廃止になっていますが、ある程度緊張感、モチベーションを持って取り組んでいるように見えます。

市長：

今の委員のご意見ですが、私どもは PR に弱いところがありますので、非常に参考になりました。視点、手法ともにできていないということを感じました。鶴岡市役所は行政機関で、様々な行政サービスを提供していますが、民間でできることは民間でやる、という考えがあります。今までゆ〜Town、ぼんぼの湯は株式会社として温泉経営をしてまいりました。株式会社という性格ですので、いろんな手法を使って様々な誘客を行います。一方

で市民の皆様からの税金を投入しながら、行政が様々なサービスを提供していく際の大事な視点として民業圧迫がありますので、行政が関与するとすれば、行政サービスとして相応しいもの、という視点は忘れてはいけないと考えています。その中で温泉施設がどんなサービスを提供していくのかということはしっかり議論し、公的セクターが関与していくのに相応しいサービスは何か、ということを整理していく視点が必要だと思えます。集客して活性化すればいい、という考えもありますが、それが実体として難しい現状で、税金を投入していくとすれば、民間で温泉サービスを提供されている方がいて、この問題があるということだけは頭に入れていただきたいと思います。

会長：

継続のための方策については、総務部長から大まかな話はありませんでしたが、もう少し具体的な説明ができる部分があれば発言をお願いします。

総務部長：

もう少し詳しくというお話ですが、本日は方策検討案として出させていただいておりますが、この度のご意見を受けて、19日に向けて少し詳しいご説明をさせていただくための整理と位置づけさせていただければありがたいと思えます。現段階での試算では、令和元年度ベースの入場者水準を維持できれば、提示いたしました検討案のイメージがある程度成り立つと考えております。本日のご意見を十分踏まえたうえで事務局としての整理案を19日に再度ご提案させていただきたいと思えます。

会長：

4つの方策があるなかで、個人的に厳しいと思うのは、経営指標の設定です。今は温泉施設を継続する方向で協議を進めていますが、目標に達しない場合は直営委託廃止、施設廃止もあるということです。こうならないためにどのようにするかをしっかりと検討議論すべきと思えます。

委員：

市長からは民業圧迫、行政サービスのあり方のお話がありました。私も同じように思えます。もともとは地方創生、観光進行、地元福利厚生ということでスタートしていますので、そのあたりを大事にしながら、利潤追求ではなく、地元の皆さんの憩いの場としていければと思えます。ただ、先ほど副市長からお話しがあったとおり、地元の方の利用が非常に少ないので、地元で支えていくという考え方を強めていくことが大事だと感じています。また、食堂が足枷になっているという表現がありますが、羽黒の場合は食堂が順調に推移しています。立谷沢の北月山荘のようなやり方もあると思えますし、持続できるようなやり方を検討する必要があります。ただお風呂に入って帰るのではなく、リーズナブルな料金で美味しいものも食べられるようにできればいいと思えます。ただ食堂を止める

ということではなく、そういった点も検討していただきたいと思います。

委員：

市長からの民業圧迫の視点、大変勉強になりました。広告というと集客、ビジネス的な利益追及が目的というように捉えてのご意見かと思います。私が言いたかったのもただ儲かればいいという話ではなく、守るために広告など情報戦略が必要ではないかという意見です。情報インフラが変化してくる時代において最低限の広告で届けたい人にすら届いていない状況で、せめて地域の人のためにでも、情報配信していただきたいと思います。スマホを通じて世界と繋がっている結果、東京、仙台などの情報が地域を越えて伝わってくる現状で、守りの広告を置いておく必要があると思います。人を増やすための広告ではなく、ちゃんと気づいてもらうための広告、地元の人にわかってもらうためにも必要になります。そんなに費用もかからず、難しい設定等もありませんので、守るための情報戦についても是非検討していただきたいと思います。

会長：

本日は経過と方向性について協議予定でしたが、幸いにも今後の方向性、こうしたら良くなるのではという意見が非常に多く出されたと思います。今後検討するにあたって、今回出された意見を十分に反映していただき、良い施設にしていきたいと思います。

五十嵐主幹：

会長、委員の皆様、時間一杯までたくさんの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。ここで事務局から次回委員会についてご連絡させていただきます。

伊藤課長補佐：

次回の委員会ですが、11月19日（木）、場所は市役所6階大会議室で午前10時開始と予定しております。詳細については通知等でご連絡させていただきます。

五十嵐主幹：

それでは改めまして会長、委員の皆様、どうもありがとうございました。以上を持ちまして第2回鶴岡市行財政改革推進委員会を閉会いたします。